

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
1 京都で学ぶ魅力の向上	(1) 大学間連携による学びの充実	① 京都ならではのフィールドにおける新たな単位互換科目の開設	京都ミュージアムPBL科目	京都ならではのフィールドにおける新たなアクティブラーニングによる単位互換科目として、令和2年度開設。文化都市京都の利点を活かし、京都に集まる多様な博物館(ミュージアム)をフィールドに京都の持つ魅力的な文化を学びながら、そこにある様々な課題に取り組むことでチームワークを活かし、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる人材を育成。	「京都ミュージアムPBL科目」は、当初3大学・3科目の開講を予定していたが、受入大学等の都合により、2大学・2科目での実施となった。全科目の受講者合計は、30名と前年度と比して減少した。	「京都ミュージアムPBL科目」は1大学・1科目を開講予定。 ・受講者確保に向け、積極的に広報活動を継続して行う。 ・着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、双方への積極的なサポートを実施する。	大学コンソーシアム京都
			京都世界遺産PBL科目	京都の世界遺産をフィールドにPBLを展開する科目を実施。	「京都世界遺産PBL科目」は6大学・6世界遺産・7科目を開講した。全科目の受講者合計は121名で、前年度と比して増加した。	「京都世界遺産PBL科目」は6大学・6世界遺産・7科目を開講予定。 ・受講者確保に向け、積極的に広報活動を継続して行う。 ・着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、双方への積極的なサポートを実施する。	大学コンソーシアム京都
		② 単位互換制度におけるグローバル科目の開設	グローバル科目開設に向けた検討	大学の国際化に即したグローバル科目開設に向けた検討を実施。	学生が広くグローバル科目を受講する機会を創出するため、英語を教授言語とする科目の提供促進を企図して、同科目に補助金を支給する仕組みを構築した(2023年度から開始)。	各大学に対して英語を教授言語とする科目の提供を広く依頼するとともに、学生に対しては特色ある科目の一つとして積極的に周知を行う。	大学コンソーシアム京都
		③ 新たなeラーニングの仕組みの研究	新たなeラーニングの仕組みづくりの検討	新たなeラーニング等、ICTの活用について検討を実施。	単位互換事業においては、オンライン授業がもつ「受講機会拡大」「教育の質向上」の可能性を重視し、同授業の単位互換提供を促進するため、新たな補助金の枠組み「プラザ・オンライン科目」を制定した。これにより、キャンパスプラザ京都実施とオンライン実施を併用する科目、及びオンライン実施のみの科目にも対象を拡大した。	各加盟校で実施されるオンライン授業は総体として減少しているが、補助金支給額の増額などを広く周知し、オンライン科目の提供促進に向けて引き続き、加盟校へ働きかけていく。	大学コンソーシアム京都
		④ 大学間連携の取組を活用した、教員免許等資格取得に必要な科目の履修支援	日曜講座開設による京都全体の教職課程の充実	京都教育大学と連携し、キャンパスプラザ京都において、社会人を含めた学生が受講しやすい時間帯(日曜)における教員免許の資格取得に必要な単位互換科目を開設。	これまで京都教育大学のオンキャンパス科目として教職科目を開講してきたが、2021年度からその一部を日曜日に集中講義形式で行うプラザ科目(「教職日曜講座」)として開講してきた。2023年度よりこれまでの受講者数等を勘案し、平日に5科目(10単位)をオンキャンパス科目として開講した。	受講生のニーズ等を踏まえ、今後の開講計画について引き続き検討する。	大学コンソーシアム京都
		⑤ 京都市大学のまち交流センター管理運営	大学のまち交流センター管理運営	大学における学術研究の成果、その他の知的資産を活用することにより、豊かな地域社会の形成に資するため、大学相互の間及び大学と産業界、地域社会等との間の連携・交流を促進する活動等に活用。	定期的な点検及び随時の適切な対応により、快適な利用環境を維持し、利用者からの要望等に迅速かつ細やかに対応した。	指定管理委託先との連携を図り、かつ施設設備の更新と改修を適切に行うことで、快適な利用環境を維持し、施設の稼働率向上に繋げる。	京都市大学コンソーシアム京都
(2) 「安心して安全に学べる京都」の充実	① 障害のある学生が学びやすい環境づくり	ノートテイク養成講座・パソコン(PC)テイク養成講座	テイク(支援者)とその利用者の体験談やノートテイク・PCテイクの基本理解の講義、実践を通して、大学教職員・学生に情報保障に関するスタートアップの機会を提供。	8月に対面にて開催した(参加者数20名)。前年度はオンラインで実施したが、5年度はいくつかの支援機器を実際に体験する機会を設けるため対面とした。「こういった環境下で使用すると効果的か」といった質問があるなど、今年度のテーマについての関心の高さが伺えた。	テイク養成といった支援者養成講座のみならず、加盟校の多様かつ変化するニーズに対応するために、テーマ別研修の一環として、試行的に位置づけることを検討する。	大学コンソーシアム京都	
		関西障害学生支援担当者懇談会(KSSK)	関西にある大学の障害学生支援に携わる実務担当者の情報交換とネットワーク構築を目的に開催。	令和5年9月13日に第31回KSSKを開催した(参加者数55名)。障がいのある学生の災害時対策、緊急的な事象への対応策について、実際の取組事例等から学ぶ機会とした。また、令和6年2月29日に第32回KSSKを開催した(参加者数65名)。令和6年4月から合理的配慮の提供が民間事業者等にも法的義務となる中、高等教育段階における障がいのある学生支援について話題提供いただき、社会的動向と今後の展望を知る機会とした。	今年度も引き続き、日程や開催内容、開催形態等については、加盟校や関西圏の大学で構成する「KSSK 幹事会」で決定(財団の障がい学生支援事業企画検討委員会で追認)することで進めていく。	大学コンソーシアム京都	
		みやこユニバーサルデザインアドバイザーの派遣	ユニバーサルデザインの考え方を採り入れ、実践しようとする各種団体、学校、企業等に対し、必要な助言や支援を行うことにより、様々な分野や地域における主体的なユニバーサルデザインの取組を促進。	派遣回数2回 ・七条第三小学校 ・西京高等学校附属中学校	引き続き、各種団体、学校、企業等から申請があった際に、適任となる講師を派遣し、ユニバーサルデザインの取組を促進する。	京都市	
		移動支援事業	単独で外出が困難な障害のある方への移動を支援(大学等への通学の支援を含む)。	移動支援事業 実利用者数 4,146人(大学等への通学の支援を行っている者を含む)(令和5年4月～3月請求受付分)	引き続き、外出時における移動中の支援等を行うことにより、障害のある方の自立と社会参加を促進する。	京都市	
		② 高校教員を対象とした障害のある学生の受入れに関する懇談会の開催	大学における障害学生支援に関する高校教員との懇談会	障害学生支援に関して高等学校や特別支援学校と大学がつながりをもつ機会が少ないという現状に鑑み、高等学校等の教員と加盟校において障がい学生支援に携わる教職員の情報交換、交流を目的とした懇談会を開催。	令和5年8月4日にキャンパスプラザ京都にて対面で開催した。(参加者数: 大学関係者9名、高校関係者13名)。昨年度と同様に、高校教員が参加しやすい時期を検討し、夏休み期間に開催した。2部構成での話題提供後、グループ別懇談会を開催した。	高校教員の参加対象は、京都府内の高校を優先するが、京都府外の高校からの申し込みについても、京都府外の高校の事例も参考にしたいという意見を踏まえ、参加者の状況を勘案のうえ、定員を満たしていない場合には許可する。また、グループ別懇談会は、分科会のように、ある程度テーマを決め、開催する。	大学コンソーシアム京都

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体	
1 京都で学ぶ魅力の向上	(2) 「安心して安全に学べる京都」の充実	③ 大学と連携した学生の安心・安全の確保	大学における消費生活講座の開講	大学生が契約トラブルなどの消費者問題についての現状認識を高め、その解決のために必要な法的知識を学ぶとともに、自らのライフスタイルについて考えを深めることを目的として、消費者問題に関する講座を寄付講座として開設。	<ul style="list-style-type: none"> 同志社大学: 春学期毎週月曜日5講時(4月10日～7月24日(全15講))(登録者数110名)、秋学期毎週月曜日5講時(9月25日～令和6年1月29日(全15講))(登録者数107名)に開講。 龍谷大学: 後期毎週火曜日4講時(9月19日～令和6年1月9日(全15講))(登録者数22名)に開講。 佛教大学: 全5講開講(受講者数: 1回生212名 2回生47名 3回生75名)に開講。 京都教育大学: 全1講、11月24日3講時(4回生 18名)に開講。 	引き続き同志社大学・龍谷大学・佛教大学・京都教育大学において消費生活講座を開講するほか、消費者団体等と一層連携し、大学における消費生活講座を他の大学において開設できるよう取り組んでいく。	京都市	
			世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動	市民、京都市、京都府警察等との連携により展開している「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」について、地域の特性、課題等に応じた行政区単位の犯罪防止等の取組をすべての行政区で展開するなど安心・安全なまちづくりのための取組を推進。	<ul style="list-style-type: none"> 犯罪等の被害者にも、加害者にもならないための「防犯ハンドブック～若いあなたたちに知ってほしい5つのこと～」(デジタルブック)を発行するとともに、併せて同志社大学と協働し作成したハンドブックの内容を発信する動画を各種媒体において配信 同動画を作成した学生とともに、防犯及び客引き行為対策に関する啓発活動を実施。 	大学と連携し、防犯にかかる啓発物品の作成やブース出展、動画制作等を実施予定。	京都市	
		④ 学生が安心・安全に学ぶための相談体制等の充実	学生向けアプリ「KYO-DENT」(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	<ul style="list-style-type: none"> 年間ダウンロード数: 10,931 (昨年度比△925) ※R6年3月末時点 ダウンロード数の増加に向けて、京都市内のコンビニにチラシを配架したほか、Instagram広告を実施。 ニュース配信にて、学生に刺さる文化芸術イベントの情報を発信。 チラシなどの広報物のデザインを京都市立芸大の学生に依頼し、リニューアルを実施。 	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、ダウンロード比率の低い大学を中心に、認知度向上を図る。また、アプリのレイアウトをより見やすくなるよう工夫するとともに、キャンパスパートナーズ施設の紹介など配信コンテンツの充実を図っていく。	京都市 大学コンソーシアム 京都	
			新入生ガイダンス及び大学内等における街頭啓発活動	大学生に対し、京都市内における居酒屋等の客引き行為や悪質スカウトによる犯罪被害等の現状を説明し、「客引きのアルバイトをしない」、「客引きを利用しない」、「スカウトについていけない」、「ブラックバイト相談窓口」等の啓発を実施。	<ul style="list-style-type: none"> 将来を担うZ世代の方が犯罪等の被害者にも、加害者にもならないために注意いただきたいことをまとめた「防犯ハンドブック～若いあなたたちに知ってほしい5つのこと～」(デジタルブック)を発行するとともに、併せて同志社大学と協働し作成したハンドブックの内容を発信する動画を各種媒体において配信 同動画を作成した学生とともに、防犯及び客引き行為対策に関する啓発活動を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 「防犯ハンドブック～若いあなたたちに知ってほしい5つのこと～」(デジタルブック)に関して、希望大学に対して、入学ガイダンス等で講演を実施。 大学と連携し、客引き行為等の防止に係る啓発動画の作成や、地元団体との合同啓発パトロールの実施。 	京都市	
			犯罪被害者支援に係る大学連携講義等の実施	犯罪被害者に関する大学講義を(公財)大学コンソーシアム京都の単位互換科目とするなど、啓発や人材育成を実施。	<ul style="list-style-type: none"> 龍谷大学「刑事政策」(後期)の中で、犯罪被害者に関する講義を実施。 委託先の京都犯罪被害者支援センターにおいて、大学へ講師派遣を実施。 	令和5年度同様に、(公財)大学コンソーシアム京都の単位互換科目となる講義等を実施予定。	京都市	
			学生向け消費者被害に関する情報交換メーリングリストを活用した情報発信等	消費者問題に関する注意喚起を促す情報誌「京(みやこ)・くらしの安心安全情報」を大学生向けアプリ「KYO-DENT」へ掲載している。また、消費者被害の未然防止について賛同いただいている京都府内の大学(9大学)の学生課及び京都市・京都府の消費生活センター、京都弁護士会において、学生向け消費者被害に関する情報交換メーリングリストを作成し、適時、消費者被害情報等を発信するなど、消費者被害の未然防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 「京(みやこ)・くらしの安心安全情報」の「KYO-DENT」掲載(年6回) 本市に寄せられた消費生活相談に関する情報提供を行い、京都府及び京都弁護士会と連携し、大学学生課からの契約トラブルに関する問合せ等に対応。 	引き続き京都府及び京都弁護士会と連携し、メーリングリストによる情報発信を行っていただくほか、大学学生課と一層情報共有を図ることにより、消費者被害の未然防止・拡大防止に努めていく。	京都市	
			京都中小企業担い手確保・定着支援事業①	ワークショップ形式で労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発等を目的としたセミナーを開催。また、ブラックバイトの根絶に向けて、「京都市わかもの就職支援センター」に相談窓口を設置し、アルバイトに関するあらゆるトラブルについて対応。	<ul style="list-style-type: none"> 「働くルールを知るセミナー」の開催(回数: 1回、参加者: 45名) 「ブラックバイト相談窓口」での対応(相談件数: 3件) 	引き続き、学生や企業への労働法制の周知啓発等に取り組む。	京都市	
			自転車のルール・マナー向上に関する取組	大学生の自転車事故を防止するために、大学生に対して自転車のルール・マナーの向上を図るための啓発等を実施。	<ul style="list-style-type: none"> 自転車ルール・マナー冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」の配布等。WEB対応を希望する大学へは、同冊子のデータを提供 KYO-DENTを活用した自転車ルール・マナーに関する情報発信 大学コンソーシアム加盟校(大学)に大学公式SNS等で、大学生に向けて自転車ルール・マナーに関する情報を発信いただくよう依頼 ガクシンFindが発行する大学生向けフリーペーパー「ガクシン」に自転車ルール・マナーに関する記事を掲載 	令和5年度と同様に実施予定	京都市	
			⑤ 災害時における学生の安全の確保	災害時における学生の安全の確保	大規模災害時の学生等を含む市民の安全を確保するため、京都市地域防災計画に基づき、地域における防災訓練の実施や、各大学・京都市大学のまち交流センター(キャンパスプラザ京都)における大規模災害に備えた安全対策や非常用物資の備蓄等を推進。	各区等において、避難所運営訓練等の防災訓練を実施。	引き続き、各区等における防災訓練を行う。	京都市

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
1 京都で学ぶ魅力の向上	(3) 大学経営・運営の支援	① FD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)事業の充実	大学教職員の能力開発と交流の充実	FD事業では、大学の取組等の情報発信や参加者間交流を目的とするFDフォーラム、階層別分野別研修プログラムとしてのテーマ別研修、FDに関するテーマを設定し工夫や悩みを共有する京都FD交流会を実施。	コロナが収束したことにより、最適な形態(対面・オンライン・ハイブリッド)で実施。 ◆FD事業 ・第29回FDフォーラム(ハイブリット開催 2/23・2/24 参加者数468名) ・テーマ別研修プログラム(オンライン開催 5回5テーマ/オンデマンド開催 1回1テーマ) ・京都FD交流会(対面開催 全3回3テーマ)	・引き続きFD及びSD事業を行う。実施にあたっては、国の文教政策や高等教育機関を取り巻く環境と変化などの状況を踏まえつつ、参加者アンケートで寄せられた意見やニーズを分析しながら、より充実した企画を展開する。 ・これまで実施してきた「FDフォーラム」を、今まで以上にSDの要素を取り入れたフォーラムとする。	大学コンソーシアム京都
			SD事業では、国の文教政策や高等教育機関を取り巻く環境の変化を踏まえたテーマで実施するSDフォーラム、次代の大学運営を担う世代が対象のSDゼミナール、若手から中堅職員対象の能力・スキル向上型研修としてSD共同研修プログラムを実施。これらの取組を通じて、大学教職員の能力開発と交流の場を提供。	コロナが収束したことにより、最適な形態(対面・オンライン・ハイブリッド)で実施。 ◆SD事業 ・第21回SDフォーラム(オンライン開催(基調講演、2分科会を開催) 10/28)(参加者数92名) ・SDゼミナール(対面開催 参加者数8名) ・SD共同研修プログラム(オンライン開催(全7回7テーマ うち、1回1テーマはオンライン))	大学コンソーシアム京都		
		② 中小規模大学をはじめとする大学の特色化・機能強化の支援	大学の特色化・機能強化の支援	中小規模大学をはじめとする多様な大学の個性をいかした特色化・機能強化を支援するため、各大学の現状やニーズ把握等を通じて、共同化が可能な取組・事業に関する研究や大学運営に関するノウハウを共有する仕組みづくりを推進。	令和4年度に実施した全加盟校へのアンケートやヒアリングの内容を踏まえ、多様な大学の個性を活かした特色化・機能強化の支援に資する、大学コンソーシアム京都の中期計画(2024~2028)を策定。	引き続き加盟校のニーズ把握に努め、加盟校共通の課題解決に向けて、時宜にかなった取組を迅速に行う。	大学コンソーシアム京都
		③ 大学コンソーシアム京都における情報収集・発信機能の強化	高等教育の動向調査	国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査し、大学へ情報提供。	私立大学等改革総合支援事業について、国からの情報を集約し、大学へ共有した。	国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査する。	大学コンソーシアム京都
		④ 大学コンソーシアム京都加盟校への高等教育に関する情報提供の充実	高等教育の動向調査、財団事業の影響分析	国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査し、大学へ情報提供。また、高等教育環境が著しく変化する中、指定調査課題等を活用し、財団事業の調査・研究を進め、国の動向等と併せて調査分析し、施策に反映。	従来の指定調査課題の課題を踏まえて、新たに再設計した「共同研究調査事業」をR7年度から開始すべく、委員会等を開催し、準備を進めた。	「共同研究調査事業」をR7年度から開始すべく、引き続き準備を進める。	大学コンソーシアム京都
⑤ 大学への寄付の増進	大学への寄付の増進	平成20年度税制改正に基づき、国立大学法人、公立大学法人、学校法人等に対する寄付金を京都市の個人市民税の寄付金控除の対象となる寄付金として指定(※)する仕組みを導入することにより、京都の大学に対する寄付の増進を図り、民間からの大学支援を促進。 ※ 寄付金を受領する団体からの申請に基づき、所得税の寄付金控除の対象となる寄付金のうち、市民の福祉の増進に寄与する寄付金であると認められるものを指定。	現在、3の国立大学法人、2の公立大学法人、24の学校法人に対する寄付金を京都市の個人市民税の寄付金控除の対象となる寄付金として指定している。制度の周知に関しては、ホームページで行っている。	引き続き、制度の周知をホームページ内で行っていく。	京都市		
	ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	京都市のふるさと納税に、京都の大学・学生の活動を応援する寄付メニューを開設し、「大学のまち京都・学生のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たっての財源確保を促進。	・令和5年度ふるさと納税寄付メニュー「京都の大学・学生の活動を応援」 ・取組に賛同いただいた29大学や京都学生祭典と連携し、寄付の促進に向けたPR等を行った。 (令和6年3月末時点寄付申出実績: 12,614件 599,518千円) ・また、令和4年度までに取組を開始した24大学に対し、令和4年度に収入した寄付金を活用し、各大学が実施する地域連携事業やリカレント教育事業に補助を行った。	引き続き、同メニューへの寄付の促進を図り、京都の学生を応援しようというファンを広く全国から獲得するとともに、各大学において実施する地域の連携強化等に関する事業の後押しを行い、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上につなげていく。 【大学・学生と地域の連携強化等に関する協定大学数】 R4: 24大学→R5: 29大学	京都市		
(4) 大学施設整備の支援・誘導	① 大学施設整備の支援・誘導	大学施設整備支援事業	大学からの施設整備等についての相談を受け、大学が行う施設整備に技術的な助言等を行うとともに、施設整備に必要な各種手続き等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を実施。また、都市計画マスタープランや持続可能な都市構築プランにおいて、大学の機能充実を明確に位置付け、施設整備の更なる支援を実施。	各大学の相談に応じて大学が行う施設整備に技術的な助言等を行うとともに、施設整備に必要な各種手続き等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を行った。	引き続き、各大学からの施設整備に伴う各種許可等の相談に対し、手続き等が円滑に進むよう、適切な支援・誘導を行う。	京都市	
		① 戦略的な留学生誘致の展開(留学生誘致戦略の改善)(効果的なPRの実施、体制の充実)	全国から京都へ! 留学生の戦略的誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。	【留学生向け】 ・全国の留学生に向け、オンラインによる京都進学説明会を実施。 ・首都圏等日本語学校留学生対象オンライン合同説明会(大学・専修学校説明: 20校、日本語学校側参加者: 9校)を実施。 ・学び体験ツアーについては、経費面及び事業実施体制の観点から実施を見送った。	・留学生を対象とした交流会(ハイブリッド: 京都) ・冬季での受験を目指している留学生の支援に繋がるよう、京都留学進学説明会の開催を検討している。	京都市大学コンソーシアム京都

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
2大学・学生の国際化の促進	(1)留学生の誘致促進	①戦略的な留学生誘致の展開 (留学生誘致戦略の改善) (効果的なPRの実施、体制の充実)	全国から京都へ！留学生の戦略的誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。	【教職員向け】 ・教職員交流会を開催。 ・首都圏等日本語学校教職員対象に、オンラインによる合同説明会(大学・専修学校説明:17校、日本語学校側参加者:17校)を実施。 ・日本語学校と京都の大学・専門学校教職員対象オンライン交流会(大学・専修学校参加校:12校、日本語学校側参加校:7校)を実施。 ・首都圏の日本語学校教職員対象(対面:東京)留学説明会(大学・専修学校参加校:9校、日本語学校側参加校:14校)を実施。	・教職員を対象とした京都留学説明会(オンライン)、教職員を対象とした京都留学説明会(対面:東京)	
			海外における京都留学フェア等の開催	京都の学校(大学・日本語学校・専修学校)と連携し、海外で京都に特化した留学フェアや現地の教育機関等を回る京都留学説明会の開催、日本学生支援機構「日本留学フェア(JASSOフェア)」への参加による現地情勢や日本(京都)留学意向の把握、継続した京都の知名度アップなどを通じた、幅広い京都留学意欲の喚起を実施。	留学フェアはオンラインでの開催が激減し、対面での開催に移行している。 【対面】 今年度は、東南アジアを中心に出席し、継続した留学先としての京都の知名度アップを図った。(渡航先:韓国、インドネシア、マレーシア、ベトナム、タイ) 【オンライン】 中国人を対象とした留学フェアに出展したほか、全世界を対象とした日本学生支援機構(JASSO)主催の留学フェアにも出展した。	・韓国(8月)JASSO主催日本留学フェア渡航 ・台湾(9月)ライセンスアカデミー主催日本留学フェアin台湾渡航 ・ベトナム(10月)JASSO主催日本留学フェア渡航 ・インドネシア(11月)JASSO主催日本留学フェア渡航 ・タイ(1月以降予定)詳細検討中渡航 ・JASSO(12月)日本留学フェアオンライン	京都市大学コンソーシアム京都
			総合ポータルサイトの運営	大学・日本語学校などの学校情報、住宅・就職を含む生活情報など、京都留学に関する総合ポータルサイトを設置・運営。	・「STUDY KYOTO」アクセス件数(年度計) 160,464件 ・特集記事の掲載数(累計) 129本 ・ニュースレター配信回数(累計) 35回/登録者数 4,321人 ※2024年3月末時点	一部に有料広告記事を導入し、安定的な運用を目指していく。	京都市大学コンソーシアム京都
			留学生PRチーム	京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、出身国等における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報について現地向けに発信。	京都で学ぶ現役留学生によるPRチームを編成し、7か国(中国、タイ、韓国、台湾、ベトナム、インドネシア、スウェーデン)、9名体制で、各国における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報の現地向け発信をソーシャルメディア等により行った。	引き続き留学生7か国(中国、タイ、韓国、台湾、ベトナム、インドネシア、スウェーデン)、9名体制を維持しつつ、留学フェアや各種交流行事などを交えることで、京都の留学生や留学生予備軍に対して、より魅力的な情報発信に努める。	京都市大学コンソーシアム京都
			市の友好交流都市(姉妹都市、パートナーシティ)や関係機関などとの連携による情報発信	京都で学ぶ留学生を誘致するため、本市友好交流都市(姉妹都市、パートナーシティ等)や(一財)自治体交流協会などと連携し、「大学のまち・学生のまち」としての魅力を発信。	引き続き、本市との姉妹都市やパートナーシティの関係にある中国・韓国をはじめ、インドネシア、マレーシアなど、地理的にも日本に近く、京都で学んでいる留学生が多い地域を中心に、オール京都による「留学生スタディ京都ネットワーク」による、海外留学フェア等への参加や海外現地に赴いた説明会を実施する。	引き続き、本市との姉妹都市やパートナーシティの関係にある中国・韓国をはじめ、インドネシアなど、地理的にも日本に近く、京都で学んでいる留学生が多い地域を中心に、オール京都による「留学生スタディ京都ネットワーク」による、海外留学フェア等への参加や海外現地に赴いた説明会を実施する。	京都市
			京都留学ガイドの活用	平成28年度に作成した「京都留学ガイド」について、留学フェアや学校訪問等の際に配布するほか、ウェブサイトにもPDF版を掲載。	・WEB(ポータルサイト)上で最新の学校情報データを提供し、京都留学環境のPRツールとして活用した。 ・また、留学フェアや関係機関訪問の際にもガイドブックを活用し、Study Kyoto並びに京都留学の認知度向上に活用した。	引き続き、WEB(ポータルサイト)上で最新の学校情報データを提供し、京都留学環境のPRツールとして活用する。	京都市大学コンソーシアム京都
			海外教育旅行向け支援メニューの提供	海外から京都に教育旅行で訪れる教員・学生向けに、レクチャー・キャンパスツアー・学生交流機会の提供、文化体験プログラムの紹介などを行い、併せて京都留学に係るレクチャーを行うことにより、訪問者に対して留学先としての京都の魅力を紹介。	コロナ禍以降、海外の学校等から本件事業に関する実施の要望がないため、実施実績なし。	実施機関・団体等からの要望を精査したうえで企画・立案していく。	京都市大学コンソーシアム京都
			日本語学校における進学説明会の実施	京都の日本語学校で学ぶ留学生の地域内での進学を促進するため、日本語学校において大学や専門学校による学校説明や個別相談などを行う進学説明会を実施。また、大学、専門学校と日本語学校の連携を深めるため、そうした機会を利用して、大学、専門学校と日本語学校の担当者が情報を交換する機会を設定。	京都留学説明会に注力しており、個別の日本語学校における進学説明会については実施していない。	現時点で具体的な実施予定はない。	京都市大学コンソーシアム京都
			②留学生スタディ京都ネットワークの機能の強化	留学生スタディ京都ネットワーク	大学、日本語学校、専修学校、経済界、京都府とともに、海外から京都の大学等への留学をオール京都で促進するための組織を運営。	京都における留学生の誘致をオール京都で取り組み、「大学のまち・学生のまち」としての京都の魅力向上を図るため、(1)「留学先・学びのまち」としての認知度の向上(情報発信)、(2)各大学・日本語学校の誘致活動等の支援、(3)留学生受入環境の整備を取組の柱として活動。2023年度末時点で93団体が加盟	総会や各種委員会等での協議結果を踏まえ、引き続き留学生誘致・支援に係る各種事業を展開していく。

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
	(2)留学生の受入環境整備	①留学生の受入に係る大学の負担軽減への支援	京都で学ぶ留学生の受入環境支援・体験交流促進事業	入学直後の留学生に行政手続きや生活ルールに係る情報提供等を行う「ウェルカム・パッケージ」、京都市の文化施設の見学・体験等の機会を提供する「留学生優待プログラム」を実施。加えて、令和4年度からは新たに京都で学ぶ多様な学生が、京都ならではの文化芸術や伝統産業に触れる「参加体験型プログラム」を本格実施。	春入学・秋入学の時期に合わせ、留学生を対象にしたウェルカム・パッケージ(各種行政手続き等の説明会)を対面方式で実施。	引き続き、春入学・秋入学の時期に合わせて電子データも活用しながら、留学生を対象にしたウェルカム・パッケージ(各種行政手続き等の説明会)を対面方式で実施予定。	京都市
2大学・学生の国際化の促進	(2)留学生の受入環境整備	②留学生や外国人研究者及びその家族の支援体制の強化	外国人留学生の自転車ルール・マナーの向上に関する取組	日本の交通ルールに不慣れな外国人留学生に対し、事故を未然に防ぐため、日本の自転車ルール・マナーの向上を図るための啓発等を実施。	自転車ルール・マナー冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」(英語版、中国語版)を日本語学校及び希望する大学に配布 WEB対応を希望する大学へは、同冊子のデータを提供	・令和5年度と同様に実施予定 ・大学コンソーシアム加盟校(大学)に大学公式SNS等で、留学生に向けて自転車ルール・マナーに関する情報を発信いただくよう依頼 ・京都国際交流協会、損害保険団体と連携し、留学生向けセミナーにおいて自転車用ヘルメットを贈呈(4月21日実施済み)	京都市
			職員向け教職員スキルアップ研修	大学コンソーシアム京都加盟大学の職員を対象に、英語力並びに多文化理解向上のための研修を実施。	・英語研修(4回)と多文化理解研修(1回:イスラム教を中心とした東南アジア)を実施した。(全5回、延べ35名参加) ・一部を対面による開催に切り替え、曜日や1日当たりの時間を複数パターン設定するなど工夫しながら実施し、受講者の満足度が高い研修となった。	・7月から11月にかけて、計6回(英語研修4回+文化研修2回)実施予定。 ・受講者の負担軽減の観点から、実施時期を分散化(従来は7月~9月に短期集中型で実施)している。	大学コンソーシアム京都
			京都市生活ガイドのホームページでの公開	初めて京都で生活する外国籍市民等が安心して暮らせるように、生活上の留意点を説明した「京都市生活ガイド」(日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語)を(公財)京都市国際交流協会のホームページ上で公開。 ※事業開始当時は紙媒体で配布していたが、平成28年度から紙媒体を廃止し、ホームページ上での公開に一本化。	引き続き、「京都市生活ガイド」をホームページ上で公開した。	「京都市生活ガイド」の更新を行い、引き続きホームページ上で公開する。	京都市
		ウクライナ・キーウ京都市民ぐるみ受入支援ネットワークにおける受入支援	京都市の姉妹都市であるキーウ市をはじめウクライナから避難された方々を、温かく受け入れ、支援を行う。	ウクライナ・キーウ京都市民ぐるみ受入支援ネットワークにおいて、住居支援をはじめとする、避難者ニーズに応じた様々な生活支援を実施した。	引き続き、ウクライナ避難者への受入支援を行うとともに、今後国等からの生活支援の終了に伴い、自立に向けた支援を行う。	京都市	
		京都市外国籍市民総合相談窓口運営	京都で暮らす外国籍市民等の相談事などに対して、適切な窓口への案内等を行うための相談業務を、京都市国際交流会館において実施。	行政通訳をはじめとする、各種相談業務を実施した。	新たにベトナム語を追加した行政通訳相談事業の周知啓発に努めるとともに、引き続き、総合相談窓口において、相談業務を実施する。	京都市	
		③留学生の住まいの提供支援	留学生のための住宅情報サイトの運営	留学生が多言語(日・英・簡・繁・ハンガール)で賃貸住宅を検索できるサイトを民間企業の協力を得ながら運営。	・留学生の住宅探しに役立つよう、多言語(4言語)の賃貸住宅情報サイト「Kyoto Housing Search for International Students」を運用。	・引き続き住宅検索サイトの運営を継続するとともに、留学フェアや説明会の場などで積極的にアピールしていく。	京都市 大学コンソーシアム京都
		④留学生と地域・日本人学生の交流促進	留学生と地域をつなぐ交流会	2017年度に実施した「留学生満足度調査」において課題となった「留学生と地域との交流促進」について、留学生と地域における様々なイベントを主催する地域団体等とつなげる交流会を実施し、留学生と地域のマッチング機会を創出。	令和5年3月に文化庁が京都に移転したことを踏まえ、地域で活動されている伝統産業の経営者や地域で文化活動を行う団体と留学生との交流を図った。 10月:京瓦の老舗を訪ねる(京都市伏見区)留学生18名参加 12月:キラッと輝く宇治っ子たちを訪ねる(宇治市)留学生15名参加 2月:竹の里・乙訓で京銘竹を学ぼう(長岡京市)留学生15名参加	・地域交流事業として年間3回程度の企画を実施予定(7月:西陣織、秋以降2回) ・「学生のプレミアム体験・交流事業」等により、京都で学ぶ日本人学生も交え、京都ならではの体験としての事業も実施していく。	京都市 大学コンソーシアム京都
		⑤留学生を対象とした日本語教育の支援	日本語運用力向上講座	大学での日本語学習支援が十分でない、あるいは、交流を通じて日本語力を高めたい留学生を対象に、実践での日本語運用力の向上を目指す講座を開設。	日本語運用力向上講座として「キャリア形成のための日本語学習(3回シリーズ:10-11月)」を対面方式で実施。 延べ参加者数 32名	9月から11月にかけて3回の講座として開講予定	京都市 大学コンソーシアム京都
		⑥外国語による学習環境の整備・支援	グローバル科目開設に向けた検討	外国語で履修できる各大学の科目について、単位互換制度による提供に向けた検討を実施。	再掲:1-(1)-②事業名「グローバル科目開設に向けた検討」	再掲:1-(1)-②事業名「グローバル科目開設に向けた検討」	大学コンソーシアム京都
		⑦災害時における留学生等の安全の確保	国際交流会館における防災訓練	大規模災害の発生を想定し、外国籍市民等の防災意識を高め、災害時の通訳体制などの強化を図る訓練を実施。	令和5年6月24日に防災訓練を実施。当日は、初期消火訓練、起震車体験や災害時の備えに関する講演・ワークショップなどを実施した。	引き続き、同会館において防災訓練を実施する。	京都市
災害時多言語電話通訳事業	災害発生時、避難所等が設置された際に、本市の職員や避難所の運営主体等が日本語を話せない外国籍市民等に対応できるよう、専用の電話回線により通訳が可能な体制を整える。		災害発生時に避難所等において電話による通訳サービスを利用できる体制を維持した。	引き続き、同体制を継続する。	京都市		

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
			防災ポータルサイト	大規模災害時の留学生の安全確保を図るため、京都市総合防災訓練への留学生を含む外国籍市民の参加を促進するとともに、防災ポータルサイトでの防災関連情報の発信等を実施。	防災ポータルサイトから自動翻訳機能等を用いた、留学生等への防災関連情報の発信等を実施した。	引き続き、防災ポータルサイトの運営を適正に行う。	京都市
			京都市防災危機管理情報館	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信。	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信。	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信予定。	京都市
2大学・学生の国際化の促進	(3)留学生の進路・社会進出の支援	①留学生の就職支援・マッチング事業の強化	留学生就職サポート事業	京都の大学に在籍する留学生と京都企業を対象とした、求人・求職の情報提供・あっせんを行うウェブサイトを開設し、就職・採用の機会を創出(マッチング)するとともに、セミナーや交流会を開催し、地元企業への就職の機運を醸成。	令和4年度より、事業名「地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業」に統合	-	京都市
		②留学生の採用に積極的な地域企業の支援	留学生就職サポート事業	京都の大学に在籍する留学生と京都企業を対象とした、求人・求職の情報提供・あっせんを行うウェブサイトを開設し、就職・採用の機会を創出(マッチング)するとともに、セミナーや交流会を開催し、地元企業への就職の機運を醸成。	再掲:2-(3)-①事業名「留学生就職サポート事業」	再掲:2-(3)-①事業名「留学生就職サポート事業」	京都市
			留学生向けインターンシップ事業	京都地域在住留学生の、京都地域の企業(特に中小企業)に対し事業内容の理解を促し、留学生と企業の相互理解による、採用促進及び就職後の定着を促進。	・ガイダンス、企業交流会、事前研修、就業体験、事後研修、成果報告会と一貫したプログラムとすることで、留学生にとって効果的なインターンシップ(有給型7社11名、無給型7社14名合計11社25名)を実施 ・企業見学やオープンカンパニーを実施することで、留学生と京都企業におけるマッチングの機会を創出。	引き続き、インターンシッププログラムを実施。	京都市 大学コンソーシアム 京都
			留学生就職支援・交流コミュニティ KyoTomorrow Academy 事業	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業」の採択を受け、企業見学、ビジネス日本語研修、就職セミナー、交流会等を通じて、留学生が学生同士や企業、地域等と交流を図りながら、地元企業への就職意識を高め、京都での定着を促進。	・日本語学習支援として、日本語スタディグループ「日本語で話そう!」を適宜開催。 ・その他、日本語運用力向上講座「キャリア形成のための日本語学習(3回シリーズ:10-11月)」、地域交流事業、企業見学やオープンカンパニーなどにおいてもKTAメンバーから参画、留学生に興味を持ってもらえるよう記事発信を積極的に実施した。	・「日本語で話そう」概ね月1回開催予定 ・その他取材体験(就職イベント、文化体験)などを随時開催	京都市 大学コンソーシアム 京都
		③留学生と企業がつながる機会の充実	外国人留学生のための就職ガイダンス&ジョブフェア	日本での就職を目指す留学生に対し、就職活動に関する情報の提供や採用担当者と直接面談ができる説明会を実施。	オール京都による「留学生スタディ京都ネットワーク」を通じ、留学生に対し、本市等が実施する各種の就職支援説明会等に関する情報提供を実施。	オール京都による「留学生スタディ京都ネットワーク」を通じ、留学生に対し、本市等が実施する各種の就職支援説明会等に関する情報提供を実施予定。	大学コンソーシアム 京都
	(4)日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	①日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	英語で京都をプレゼンテーション	大学コンソーシアム京都加盟大学の学生のうち、海外留学を検討中又は留学を予定している学生や英語で日本や京都の魅力を発信することに興味がある学生を対象に、英語で京都や日本の魅力を発表できるよう研修事業を実施し、英語によるプレゼンテーション能力の向上、日本文化や京都の奥深い魅力を知り、理解する機会を提供。	・海外留学を目指す学生や、英語で日本・京都の魅力を発信することに興味がある学生を対象に、日本文化や京都の奥深い魅力を英語で知り理解する機会を提供し、京都や日本の魅力について英語でプレゼンテーションできる能力の向上を図る研修事業を実施した。 ・令和5年度受講者実績:6名	・下記日程で事業を実施した。 5月25日、6月1日、8日、15日、22日、7月6日 ・今年度の受講申込28名、うち修了者15名	大学コンソーシアム 京都
			「京(みやこ)グローバル大学」促進事業	留学生誘致をはじめ、交換留学にもつながる市内大学と海外大学との連携など、大学及び学生の国際化に向けた取組を点ではなく面として支援を広げていくことを目的に、留学生増につながる取組を行う大学を支援。	留学拡大に向けたインドの大学との協定締結や国内日本語学校への誘致活動など、国際化に係る取組を進める令和2年度に認定した7大学(池坊短期大学、大谷大学、京都市立芸術大学、京都女子大学、京都精華大学、京都ノートルダム女子大学、佛教大学)を支援。	令和5年度末にて事業終了	京都市
			「京都PR学生大使」制度	京都ファンや京都への留学生数の増加を目的として、「京都PR学生大使」を任命し、日本人学生の海外留学への関心を高めるとともに、留学先でのコミュニケーションの不安を軽減することによる海外留学促進と、学生が留学先などで京都の魅力を英語で的確に発信。	・大学コンソーシアム京都主催の「英語で京都をプレゼンテーション講座」を修了した学生のうち、希望者を「京都PR学生大使」に任命 ・任命者数 6名	引き続き、京都PR学生大使を通じ、SNSなどを活用し、国内外に向けて京都の魅力を発信予定。	京都市
	(5)海外の大学との交流促進	①海外の大学との交流促進	語学留学プログラム	留学プログラムが少ない大学で学ぶ学生においても、様々なレベルでの留学機会を確保できるよう、大学コンソーシアム京都とビクトリア大学連携組織との協定に基づくオーストラリアメルボルンでの留学派遣プログラムを実施。(単位互換制度を活用)また、留学機会の更なる創出のため、安近短(安全、近場、短期)な語学留学プログラムを開発。	・単位互換制度の枠組みの下、龍谷大学が科目提供元となり、ヴィクトリア州への短期留学プログラム(1か月)を長らく実施してきたが、令和4年度末で同プログラムが廃止となった。 ・一方、大学コンソーシアム京都における独自の海外研修プログラムの開発に着手し、コンソーシアム加盟校の協力も得て、マレーシア科学大学との間で学生の海外研修・交流プログラムの実施に向けた協議に着手している。	・令和5年度に実施した事前調査の成果を生かし、令和6年3月にマレーシア・ジョージタウン(マレーシア科学大学等)に、約10日間の日程での海外派遣研修実施を行う。 ・実施内容に関する事業者協議(～7月) ・学生募集(～10月) ・事前学習(10～1月) ・プログラム実施(3月上旬:10日間)	京都市 大学コンソーシアム 京都

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
			国際化の事例共有	教職員の国際化支援の一環として、大学における様々な国際化の取組に係る事例共有セミナーを実施。	・大学コンソーシアム京都加盟大学における国際事業の推進に向け、令和5年11月8日に国際連携事業に関する事例共有セミナーを開催。 ・龍谷大学グローバル教育推進センターからの話題提供により、マレーシア・テラーズ大学におけるグローバル人材育成の取組と成果について事例共有があった(出席大学:8大学、参加者14名)	各大学等に話題提供を呼び掛け、たうえで、トピックを選定し、2024年度後半の開催に向け調整を行っていく。	大学コンソーシアム京都
3大学の枠を超えた学生の活動の推進	(1)学生の主体的活動の促進	①京都学生祭典等、学生が主体となって運営している活動の充実に向けた支援	京都学生祭典	京都四大祭りを目指す京都学生祭典において、学生の成長と京都のまちの活性化の双方につながるものとなるよう支援。また、低年次生から地域等と関わる機会の拡充による学生の更なる成長を後押し。	令和5年10月8日に平安神宮前・岡崎プロムナードにて対面で実施。一部企画についてはライブ配信を行った。 【実績値(本祭当日)】 参加者数:68,695人 内訳:来場者数 66,110名、YouTube視聴回数:2,585回	今年度も引き続き、本祭をメインにイベントや地域活動を通じて、京都地域の活性化と学生の成長に資する活動を、密にコミュニケーションを図りながら、支援していく。	大学コンソーシアム京都
			京都国際学生映画祭	上映機会の少ない学生が制作した自主映画を世界各地より集め、上映する機会を学生が創り出すことを通じて、未来の映画人を担う人材・才能の発掘を目指すとともに、学生実行委員の成長を促進。	令和6年2月10日～12日に、第26回京都国際学生映画祭を京都文化博物館フィルムシアターにおいて開催(来場者数:296人)。2月17日～23日にはオンラインでも配信した(視聴回数:59回)。	引き続き、未来の映画人を担う人材・才能の発掘を目指すとともに、学生実行委員の活動を支援する。	大学コンソーシアム京都
			京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	・ウェブサイト「コトカレ」の他、SNS(Twitter、Instagram)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力を発信した。 ・よしもと祇園花月との連携企画「京都学生広報部 presents 祇園花月大学～OB・OGが帰ってきた!?ホームカミングデー2024～」を実施。 ・コトカレの年間実績(R5年度) ・ページビュー数:558,359(前年度比△129,189) ・掲載記事本数:84本(前年度比+29本)	引き続き、学生目線による大学生生活の魅力発信を充実させるとともに、企業等と協働した取組を展開する。	京都市大学コンソーシアム京都
			京都から発信する政策研究交流大会	都市政策を学ぶ学生・院生が中心となり、日頃の研究や学習の成果発表を通じて交流を深めるとともに、地域社会に対して政策提案、情報発信の場となることを目的に政策研究交流大会を開催。	・第19回大会を対面で開催(日時:令和5年12月17日。参加者数:467名) ・上位賞受賞者による行政に対する報告会を開催(参加自治体:京都府、京都市)	引き続き、意義ある発表の場となるよう改善を図るとともに、研究成果が社会に還元される仕組みづくりにも取り組む。	大学コンソーシアム京都
		②学生Place+(ふらす)の更なる活用促進	学生Place+(輝く学生応援プロジェクト)	キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対して、活動場所の提供や専門コーディネーターによる助言・指導等を通じた支援を実施	・キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施している。(学生Place+来場者数(令和5年度:1日平均49名) ・コロナ禍で活動が制限される中、京都のまちで主体的に活動している学生団体を後押しする機会として「輝く学生応援アワード」を実施し、8団体を表彰した。	引き続き、市民活動団体、地域団体等との連携を強め、輝く学生プロジェクトを通じ、京都のまちの活性化につながる活動や社会貢献活動を行う学生を、総合的にサポートし、学生の主体的な活動を促進していく。 また、学生プラスのリニューアルを実施し、利便性を向上させる。	京都市
		③むすぶネットの活性化	むすぶネット(輝く学生応援プロジェクト)	発表の場を求めている音楽や踊りなどの学生団体・サークルと、地域の夏祭りなどに学生の参加を求める自治会等のマッチングや、地域の課題解決に大学や学生の協力を求めている地域と大学で得たことを実践する場を求めている学生を繋げることで、さらなるまちの活性化、京都のまちづくりを推進。	令和5年度より、事業名「学生Place+(輝く学生応援プロジェクト)」に統合	-	京都市
		④ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	京都市のふるさと納税に、京都の大学・学生の活動を応援する寄付メニューを開設し、「大学のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たっての財源確保を促進。	再掲:1-(3)-⑤事業名「ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設」	再掲:1-(3)-⑤事業名「ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設」	京都市
	(2)学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	①学生と地域の連携強化	大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)	魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生と地域が一体となって取り組む事業を広く募集し、助成金を交付するとともに、区役所等と協力し、学生と地域のつながりをより一層促進。	11事業を採択し、支援するとともに、地域連携WEBサイト等で取組事例の発信を行った。	大学の個別訪問など、広報の充実により、応募件数の増加に努める。	京都市大学コンソーシアム京都
			持続可能なまちづくり支援事業	柔軟で活力に満ちた若い力を地域の課題解決や地域活性化にいかすとともに、地域社会との関わりの中で得られる学びの機会を創出すること等を目的として、「区民提案事業」に学生等への支援枠を設けるほか、その他事業では学生をはじめとした若者と連携した取組を展開。	区民提案事業等により、学生と地域が連携した取組に対して支援を行った。	区民提案事業等において、引き続き、学生と地域の連携強化の取組を推進する。	京都市
			京都から発信する政策研究交流大会	都市政策を学ぶ学生・院生が中心となり、日頃の研究や学習の成果発表を通じて交流を深めるとともに、地域社会に対して政策提案、情報発信の場となることを目的に政策研究交流大会を開催。	再掲:3-(1)-①事業名「京都から発信する政策研究交流大会」	再掲:3-(1)-①事業名「京都から発信する政策研究交流大会」	大学コンソーシアム京都

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
			京(みやこ)の水キャンペーン	人口減少と節水型社会の進展により、低減傾向にある水需要の喚起に向け、市内大学と連携し、水道水をPR(飲用、お風呂の利用促進)する。	お風呂入浴促進の取組として、市内大学と連携し、京都競馬場でオリジナルせっけんを作るワークショップを行った。	啓発活動等において大学との協働を模索	京都市
3大学の枠を超えた学生の活動の推進	(2)学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	②地域活動への学生の参画促進	消防団入団促進事業	若者の消防団への入団促進を図ること、消防団の活性化、充実強化を図るため、以下の取組を実施。 1 消防団員の入団資格の拡充 2 消防団防災ハイスクールの実施 3 学生認証制度の創設・周知・利用促進 4 消防団充実強化実行チームによる入団促進	1 入団資格を居住地のほか、通学地に拡充した結果、通学地要件による学生消防団員は16名になった。 2 消防団防災ハイスクールを実施した。(指導団員(延べ96名)が20校に対し、延べ31回実施し、4,912人が参加。) 3 学生認証制度の周知や利用を促進した。(学生認証制度の利用学生団員は20名で、制度開始の平成27年度から計203名を認証。) 4 消防団充実強化実行チームによる入団促進(学生団員意見交換会を開催し、交流を図り、SNSを活用し、消防団の魅力をPR。)	引き続き、取組を強化し、若者の消防団への入団促進を図る。	京都市
			自治会等への加入促進	学生に対し、自治会・町内会への加入促進、地域活動への参加等を呼び掛けるメール等を配信。	令和5年4月に大学コンソーシアム京都加盟校等へのメール周知や学生向けアプリ(KYO-DENT)での通知を実施	令和6年4月に大学コンソーシアム京都加盟校等へのメール周知や学生向けアプリ(KYO-DENT)での通知を実施	京都市
			学生防犯ボランティアへの支援	「互いに助け合う、犯罪や事故が少ないまち」を目指し、大学生への支援と連携を進めるため、学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」への支援などを実施。 ・自主防犯活動への参加を希望する大学生を対象に、京都府警察が設けた学生ボランティア登録制度	学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」による、防犯パトロールなどの学生防犯活動に対して、補助金を交付しており、これを活用した防犯教室等各種の活動を実施した。	学生が主体となった防犯活動への支援を引き続き行う。	京都市
		③大学・地域連携ウェブサイトの開設	大学・地域連携ウェブサイト開設	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学」促進事業」、各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し、新たな連携や取組の深化を促進。	令和5年度の学まちコラボ実施事業の紹介や、学まち連携大学の取組事例を掲載するなどして、閲覧数の増加を図った。	引き続き、地域連携に係る情報の配信を行うとともに、効果的なサイトのあり方について検討を行う。	大学コンソーシアム京都
(3)大学卒業後の多様な選択肢を描ける学びの機会の充実	①インターンシップ事業の充実	インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。	「ビジネスコース・パブリックコース」では、事前・事後学習をオンラインで実施。受講生はコーディネーターとなる教員の下、実習先の業種ごとにクラスに分かれて指導を受けて実習に参加し、140名が修了した。また、「長期プロジェクトコース」では、対面で実施することを基本としながら、受入先についてはオンラインでも参加できる体制を整え実施。最終講義では活動成果報告会を行い、13名が修了した。	・インターンシッププログラムの名称を「産学連携教育プログラム」に変更し、引き続き教育プログラムとして実施する。 ・プロジェクト企画実践プログラム(旧長期プロジェクトコース)では前年度の実施状況を踏まえブラッシュアップされた授業内容やワークシートを基にプログラムを展開する。	大学コンソーシアム京都	
		②多様な生き方・学びを考える機会の創出	京都中小企業担い手確保・定着支援事業②	学生と京都の中小企業との交流会の開催等、相互理解を深める取組を実施。	学生と地域企業との交流会等を開催(回数:45回、参加者:延べ2,205名、参加企業:延べ450社)	引き続き、学生と企業の相互理解を深めるため、事業に取り組む。	京都市
		京都中小企業担い手確保・定着支援事業③	学生や企業の要望に応じて、低年次の学生も対象としたインターンシップや企業見学会等の開催をサポートし、早い段階から京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進。	会社見学の開催(参加者:延べ14名、参加企業:延べ14社)	引き続き、京都の中小企業に対する学生の理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進するため、事業に取り組む。	京都市	
		地域企業インターンシップ促進プロジェクト	地域企業のインターンシップの活用を促進するため、セミナーの開催や情報発信、学生等が短期間で複数の地域企業を訪問する、地域企業訪問プログラム等を実施。	・企業向けセミナーの実施(回数:4回、参加企業:延べ225社) ・企業訪問プログラム(回数:6回、参加者:延べ151名、参加企業:延べ47社)	引き続き、地域企業のインターンシップの活用を促進し、学生に地域企業の魅力を発信するため、事業に取り組む。	京都市	
		西陣を中心とした地域の活性化	平成31年1月に策定した「西陣を中心とした地域活性化ビジョン～温故創新・西陣～」に基づき、市民や地域、学生、事業者、行政など、地域に関わる幅広い主体の役割分担のもと、地域が有する多彩な魅力・資源をいかした活性化の取組を推進。	・「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」に基づく各種取組を推進。 ・地域の更なる魅力発信を目的に開催した「西陣ピック!～ものづくり体験&まるごとマルシェ～」において、学生が子ども向けワークショップの運営などを行った。	・「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」に基づく各種取組を推進。 ・各種取組の実施において、学生との連携などを検討していく。	京都市	
児童館等における大学生職業体験事業	学生を児童館等に派遣し、施設職員と同様の業務を行うことを想定した、職務実践型の職業体験事業を実施することにより、学生の学びの充実や、学生と関わる子どもたちの育ち・学びを支援。	協定を締結した市内2大学のうち、橘大学では合計4名の学生が、それぞれ5日間の職業体験に参加し、京都芸術大学では合計6名の学生が、5日間の職業体験に参加。	引き続き、協定を締結した市内2大学を中心に、参加学生を募集する。	京都市			

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体	
3大学の 枠を超え た学生の 活動の推 進	(3)大学卒 業後の多 様な選択 肢を描け る学びの 機会の充 実	③高大社連 携キャリア 教育企画の 充実	高大社連携 キャリア教 育企画	高校生と大学生のキャリア発達を促すことを目的として、テーマを設けて高校生・大学生・社会人といった世代間や学校間を越えて対話し交流する「高大社フューチャーセッション」を実施。	高大社連携フューチャーセッション(対面開催11/3) 【参加者数32名/内訳:高校生9名、大学生19名、高校教員3名、大学教員1名】	令和5年度に引き続き、「高大社連携フューチャーセッション」を開催する。より多様な高等学校・大学の生徒・学生が参加しやすい企画となるよう、各組織間の連携し、キャリア教育における各校・各大学との積極的なネットワーク構築を図れるよう工夫を重ねる。 また、この企画の趣旨を踏まえて、社会人ファシリテーターの参加を予定している。	大学コン ソーシアム 京都	
3大学の 枠を超え た学生の 活動の推 進	(4)学生が 京都の文 化や魅力 と触れ合 う環境つ くり	①学生が京 都の文化 や魅力に 触れる機 会の拡充	キャンパス 文化パート ナーズ制度	市域の大学と連携し、学生が京都の多彩な文化に触れ、体験する機会を提供するとともに、そのための経済的な負担を軽減。	・京都市内の文化施設に協力いただき、学生の優待を実施(56施設、1事業) ・「大学のまち京都・学生のまち京都アプリ(KYO-DENT)」を通じて、制度を利用する学生に対して、文化芸術情報の配信を実施	「大学のまち京都・学生のまち京都アプリ(KYO-DENT)」との連携により、制度利用者の増加や利便性の向上を図るとともに、優待文化施設の充実に取り組む。	京都市	
			文化庁移転 を契機とし た生活文化 の振興	市民等を招いての新たな茶会の開催を予定。お茶のお点前は、大学茶道部・サークルなど、京都の20~30代の方々に担っていただく方法を検討する。	令和5年9月23,24日に市役所本庁舎(和室及び正庁の間)を会場に御池茶会を開催。席主を各大学の茶道部に務めていただき、各日4席で計240名が参加。	令和7年3月に実施予定。	京都市	
			学生向けア プリKYO-D ENT(「大 学のまち京 都・学生の まち京都」ア プリ)の活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	再掲:1-(2)-④事業名「学生向けアプリKYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用」	再掲:1-(2)-④事業名「学生向けアプリKYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用」	京都市 大学コン ソーシアム 京都	
			京都ミュ ージアムP BL	京都ならではのフィールドにおける新たなアクティブラーニングによる単位互換科目として、令和2年度開設。文化都市京都の利点を活かし、京都に集まる多様な博物館(ミュージアム)をフィールドに京都の持つ魅力的な文化を学びながら、そこにある様々な課題に取り組むことでチームワークを活かし、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる人材を育成。	再掲:1-(1)-①事業名「京都ミュージアムPBL」	再掲:1-(1)-①事業名「京都ミュージアムPBL」	大学コン ソーシアム 京都	
			京都国際舞 台芸術祭	「京都文化の(現在)を世界に発信する、新たな観光資源としての国際フェスティバルを目指す」ことを基本理念とし、次世代の人材育成や本市の重要事業との連携など、京都の未来を見据えて展開し、国内外の先駆的な舞台芸術を紹介する世界的な芸術祭を開催。	令和5年9月30日から10月22日にかけてKYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2023」を実施。	令和6年10月5日~10月27日に実施予定。	京都市	
			②留学生が 京都の文 化芸術に 親しむ機 会の創出	京都で学ぶ留学生の受入環境支援・体験交流促進事業	入学直後の留学生に行政手続きや生活ルールに係る情報提供等を行う「ウェルカム・パッケージ」、京都市の文化施設の見学・体験等の機会を提供する「留学生優待プログラム」を実施。加えて、令和4年度からは新たに京都で学ぶ多様な学生が、京都ならではの文化芸術や伝統産業に触れる「参加体験型プログラム」を本格実施。	市内文化施設等への入場優待が受けられる「留学生おこしやすPASS」による体験機会の提供やイベントへの無料招待等を実施した。また、京都で学ぶ多様な学生が、京都ならではの文化芸術や伝統産業に触れる「参加体験型プログラム」を本格実施した。 (おこしやすPASS利用者数:留学生6,147名、日本人学生172名、イベント無料招待:参加者数1,851名)	市内文化施設等への入場優待が受けられる「留学生おこしやすPASS」やイベントへの無料招待等を引き続き実施するとともに、「参加体験型プログラム」を継続して実施予定。	京都市
			③若手ア ーティスト ・クリエ ーターの 育成	京都市芸術 文化特別奨 励制度	芸術文化の若い担い手等を育成することにより、新たな芸術文化の創造を促進し、京都の芸術文化を振興することを目的として、候補者を公募、審査のうえ、1個人又は1グループに対して300万円の奨励金を交付。	審査のうえ認定者を決定し、若手芸術家の飛躍に向けた活動を支援した。	令和6年5月30日~8月30日の期間で奨励者を公募。令和7年2月頃に奨励者を決定予定。	京都市
	京都学生 アートオー クション	京都の芸術系大学で学ぶ学生のキャリア支援を目的としたオークションを開催(京都学生アートオークション実行委員会主催)。	実行委員会を開催し、事業の終了及び実行委員会の解散を決定(事業終了)。	—	京都市			
	京都文学賞	京都を題材とする文学作品を募集、表彰することにより、京都における文学の更なる振興とともに、「文化都市・京都」の発信や、京都の歴史と幅広い魅力の再認識、都市格の向上を促進。	令和4年度及び5年度の2箇年をかけて第4回京都文学賞を実施。令和5年5月12日まで作品の募集を行い、336件の応募があった。選考を経て受賞作等を決定し、令和6年1月17日に表彰式を開催した。	8月1日から第5回京都文学賞の作品及び読者選考委員の募集を開始。作品については令和7年5月9日まで募集を行う。また、読者選考委員については令和7年1月31日まで募集を行い、年度内に選考、選定を行う。	京都市			
4学生の 進路・社 会進出の 支援	(1)京都の 地域企業 と連携した 担い手育 成と地域 企業の魅 力発信	①地域企業 と連携した 担い手育成	インターン シップ・プロ グラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。	再掲:3-(3)-①事業名インターンシップ・プログラム」	再掲:3-(3)-①事業名インターンシップ・プログラム」	大学コン ソーシアム 京都	

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
			地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業	大学や国籍の垣根を超えた多様な学生・留学生がチームで、京都企業と連携して課題に取り組むPBLプログラムを実施。	公募学生チームが、京都の地域企業と連携し、課題等の解決に向け、学生目線を生かしながら取り組んだ。(プロジェクト数:10、参加者:16大学・52名(うち留学生4名) また、就活前の学生が京都の地域企業を知る半日体験プログラムも開催した。(2回)	引き続き、留学生を含む公募学生チームと京都の地域企業が連携した取組等を実施予定。	京都市
4学生の進路・社会進出の支援	(1)京都の地域企業と連携した担い手育成と地域企業の魅力発信	②地域企業の魅力発信の強化	京都中小企業担い手確保・定着支援事業④	京都企業・就業情報データベースを作成し、ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用して情報発信を行うことで、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業の魅力を広く周知。	ウェブサイト「京のまち企業訪問」による情報発信(掲載企業数:4,076社)	引き続き、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業の魅力を広く発信するため、事業に取り組む。	京都市
			京都中小企業担い手確保・定着支援事業③	学生や企業の要望に応じて、低年次の学生も対象としたインターンシップや企業見学会等の開催をサポートし、早い段階から京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進。	再掲:3-(3)-②事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業③」	再掲:3-(3)-②事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業③」	京都市
			地域企業インターンシップ促進プロジェクト	地域企業のインターンシップの活用を促進するため、セミナーの開催や情報発信、学生等が短期間で複数の地域企業を訪問する、地域企業訪問プログラム等を実施。	再掲:3-(3)-②事業名「地域企業インターンシップ促進プロジェクト」	再掲:3-(3)-②事業名「地域企業インターンシップ促進プロジェクト」	京都市
			インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。	再掲:3-(3)-①事業名「インターンシップ・プログラム」	再掲:3-(3)-①事業名「インターンシップ・プログラム」	大学コンソーシアム京都
			京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」において、京都の地域企業取材した記事を発信。	京都の地域企業取材し、ウェブサイト「コトカレ」やSNSで発信した。	引き続き、京都の地域企業の情報を発信する。	京都市 大学コンソーシアム京都
		③地域企業と学生の出会いの場づくり	京都中小企業担い手確保・定着支援事業⑤	大学への出張セミナーの実施や、就職活動に関する様々な相談への対応により、職業観を醸成し、卒業後の多様な選択肢を描ける担い手を育成するとともに、就職後のフォローアップを実施。	・出張セミナー等の実施(回数:14回、参加者:延べ314人) ・個別カウンセリングの実施(人数:延べ464人)	引き続き、学生の職業観の醸成や卒業後の多様な選択肢を描ける担い手の育成、就職後のフォローアップのため、事業に取り組む。	京都市
		京都中小企業担い手確保・定着支援事業③	学生や企業の要望に応じて、低年次の学生も対象としたインターンシップや企業見学会等の開催をサポートし、早い段階から京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進。	再掲:3-(3)-②事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業③」	再掲:3-(3)-②事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業③」	京都市	
		京都中小企業担い手確保・定着支援事業②	学生と京都の中小企業との交流会や、キャリア授業交流会の開催等、相互理解を深める取組を実施。	再掲:3-(3)-②事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業②」	再掲:3-(3)-②事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業②」	京都市	
		京都中小企業担い手確保・定着支援事業④	京都企業・就業情報データベースを作成し、ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用して情報発信を行うことで、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業の魅力を広く周知。	再掲:4-(1)-②事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業④」	再掲:4-(1)-②事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業④」	京都市	
		地域企業インターンシップ促進プロジェクト	地域企業のインターンシップの活用を促進するため、セミナーの開催や情報発信、学生等が短期間で複数の地域企業を訪問する、地域企業訪問プログラム等を実施。	再掲:3-(3)-②事業名「地域企業インターンシップ促進プロジェクト」	再掲:3-(3)-②事業名「地域企業インターンシップ促進プロジェクト」	京都市	
		グローバル拠点推進事業	スタートアップと学生・留学生との交流の場を創出し、スタートアップの人財確保を支援する。	スタートアップ等と学生・留学生の交流の場を創出するため、以下の取組を実施した。 ①留学生と京都のスタートアップ・地域企業等との交流会 ②大学生とスタートアップ起業家との交流会 ③大学生を対象としたインターンシップ案内サイト運用	引き続き、京都で働きたい京都の学生・留学生とスタートアップが直接交流できる場を創出する。	京都市	

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
			The Future of KYOTO AWARD	学生の市内定着、市内企業就職に向け、民間企業と連携した学生主体の地域課題解決の取組。 本事業は、学生自らが地域課題を発掘し、解決策の検討・提案を行い、事業の趣旨に賛同いただいた企業と連携しながら提案内容のブラッシュアップ・試行までを行う。	令和5年度は、前年度に参加した賛同企業や学生の意見を踏まえ、学生と企業の交流会や意見交換の場を増やすなど、学生と企業の接点づくりを強化して取り組んだ(提案応募件数は8件、賛同団体数は13団体)。1次審査(書類審査)、2次審査(プレゼン審査)を経て、最終的に2件の提案を表彰し、それぞれ企業から助言等の支援を受けながら実証に向けて試行した。	・事業広報及び提案募集受付の開始時期をともに約1箇月前倒しすることにより、事業周知及び提案募集期間を十分確保することで事業に対する認知度の向上を図る。 ・学生と企業のつながりを強化するために、提案募集期間中にも新たに交流の場を設ける。	京都市
4学生の進路・社会進出の支援	(1) 京都の地域企業と連携した担い手育成と地域企業の魅力発信	④ 学生のベンチャー・インディペンデント・ソーシャルビジネス・インスマインドの育成	ものづくりベンチャー戦略拠点事業	次代の京都経済をリードするベンチャー・スタートアップ企業の発掘・育成のため、起業・ものづくり・イノベーション等をテーマにKyoto Makers Garageで交流イベントを開催。	量産化支援37件、ものづくり受注・製作47件、ものづくり相談件数101件、交流スペース・ものづくりスペース利用者1,096名、セミナー等実施(オンオフハイブリッド)計9回・154名参加、国内外メディアやパブリシティでの掲載27回・SNS等9チャンネルで発信した。 ※上記の参加者は学生以外も含む	引き続き既存取組を行うことに加え、「販売」を視野にいれたサポートを実施。 また、私立中学校と提携しものづくりに関するワークショップを追加実施予定。	京都市
			京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター創出支援事業	社会的課題の解決に取り組む事業者への各種支援や「京都市地域企業の持続的発展の推進に関する条例」に掲げる地域企業の理念の共有及び、地域企業としての実践の促進に取り組む。 企業認定制度を拡充するとともに、認定企業の情報発信及び支援を充実する。	・各大学において、京都市のソーシャル・イノベーションの取組について講義 ・事業者、大学生等が、社会課題を解決する事業アイデアを発表するピッチイベント「SOCIAL INNOVATION Meets up KYOTO」の実施 ・若者向け情報発信サイト「私たちが紡ぐ、これからの1000年。」の開設 ・認定企業や若者たちの交流イベント実施(計4回)	・「私たちが紡ぐ、これからの1000年。」に加え、SNSによる発信の強化 ・若者コミュニティと社会的企業の交流機会の創出	京都市
		⑤ 学生の就職活動の支援	京都中小企業担い手確保・定着支援事業⑤	大学への出張セミナーの実施や、就職活動に関する様々な相談への対応により、職業観を醸成し、卒業後の多様な選択肢を描ける担い手を育成するとともに、就職後のフォローアップを実施。	再掲: 4-(1)-③事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業⑤」	再掲: 4-(1)-③事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業⑤」	京都市
			地域企業インターンシップ促進プロジェクト	地域企業のインターンシップの活用を促進するため、セミナーの開催や情報発信、学生等が短期間で複数の地域企業を訪問する、地域企業訪問プログラム等を実施。	再掲: 3-(3)-②事業名「地域企業インターンシップ促進プロジェクト」	再掲: 3-(3)-②事業名「地域企業インターンシップ促進プロジェクト」	京都市
(2) 「働き方改革」の推進と学生を取り巻く就労環境の向上	① 働き方改革実践企業等の学生への周知	京の企業働き方改革総実践プロジェクト	地域企業が働き方改革の取組状況を自己診断し、その結果を企業の魅力として、WEBサイト「京のまち企業訪問」上で発信する「京の企業『働き方改革』自己診断制度」を実施。	「京の企業『働き方改革』自己診断制度」の活用促進(活用企業数: 3,879社)	引き続き、働き方改革に取り組む企業の情報を発信するため、事業に取り組む。	京都市	
	② 学生を取り巻く就労環境の向上	京都中小企業担い手確保・定着支援事業①	ワークショップ形式で労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発等を目的としたセミナーを開催。 また、ブラックバイトの根絶に向けて、「京都市わかもの就職支援センター」に相談窓口を設置し、アルバイトに関するあらゆるトラブルについて対応。	再掲: 1-(2)-④事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業①」	再掲: 1-(2)-④事業名「京都中小企業担い手確保・定着支援事業①」	京都市	
5大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化	(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	① リカレント教育(職業人・社会人向けの教育プログラム)等の実施・充実	リカレント教育の推進支援、実施に向けた検討	各大学等が実施するプログラムを共有したうえで、リカレント教育の推進に向けた支援策を検討・実施。	・令和5年度は、3講座開設し、合計150名の申込があった。また、特別講演を実施し、140名の受講があった。 ・加盟校の講座情報を発信し、広く周知するためのポータルサイトを開設・運用を開始した。	・令和6年度は、3講座中、2講座が3年目を迎えることとなり、令和7年度に新たな講座の開設にあたり、リカレント教育企画検討委員会で検討を開始している。また、令和6年度中にパイロット講座として1講座開設する。 ・ポータルサイトについては、加盟校が実施している講座の情報登録のメリットを広く周知し、活用を促進する。	大学コンソーシアム京都
		② 京(みやこ)カレッジにおける教養講座の充実	生涯学習事業「京カレッジ」の充実	一般市民を対象とした生涯学習事業である「京カレッジ」において、新・文化庁との連携や「東京2020オリンピック・パラリンピック」等の時代のトピックスを踏まえた内容を反映。	・令和5年度の提供科目数は168(前年度179)科目、出願者は延べ数で968(前年度1,278)名、実数で1,003(前年度823)名となった。 ・京都学養成コース「京都学講座」では、650名(前年度は536名)の出願があり、テーマへの関心の高さが窺われた。	・令和6年度の京カレッジ提供科目は、178科目で、前期時点での出願者数は1,014名となった。 ・京都学講座では、オーバーツーリズムをテーマに、コロナ明け以降、京都が抱える課題をテーマに据えたが、出願者数は380名に留まった。	大学コンソーシアム京都
		③ 公開講座や大学施設の情報発信	「大学リレー講座」による各大学の生涯学習事業の情報発信	一般市民を対象とした生涯学習事業「京カレッジ」のひとつとして各大学の特色ある講座をリレー形式で実施する。あわせて講座実施校のキャンパスで実施する講座やイベント等を紹介し大学の魅力をPR。	京都学、宗教、歴史・文学、健康、自然科学への関心が高く、それを意識した講義テーマで令和5年度は11大学・1短期大学で12講座を実施。	令和6年度は、10大学1短期大学による計11講座が決定した。各大学は、京カレッジ利用者(シニア層が多い傾向)の関心度の高い京都学、宗教、歴史、文学、健康のテーマで、教育研究の特色や事業のPRを行う。	大学コンソーシアム京都
		学生向けアプリKYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	再掲: 1-(2)-④事業名「学生向けアプリKYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用」	再掲: 1-(2)-④事業名「学生向けアプリKYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用」	京都市 大学コンソーシアム京都	

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
	(2)産学公連携によるイノベーションの創出及び京都経済の活性化	①産学公の連携強化	京都経済センターオーブンイノベーションの推進(一社)京都知恵産業創造の森)	産学公連携を強化し、京都産業や地域社会の課題解決に向けた取組を推進。産学公連携の事務局である(一社)京都知恵産業創造の森がオール京都のネットワークを活かし、企業と大学のマッチングの強化や地域の発展に資する京都ならではの多様な産学公連携を推進。 ※平成31年4月、京都産学公連携機構は、(一社)京都知恵産業創造の森に統合	・京都府内企業及び大学等の産学公連携ニーズに対応するための相談窓口を設置し、企業と大学等の橋渡しを実施した。 ・大学等が民間企業等と連携して新たな価値創造につなげることを目的に実施する事業を支援した(採択件数:4件、補助上限額100万円)。 ・大学等の地域連携支援事業(補助金):地域社会における新たな社会課題解決を目指す大学等の取組を支援した(申請件数:11件、採択件数:9件、補助上限額20万円)。 ・社会課題解決や企業に興味のある学生に対し、ソーシャルイノベーションについて学ぶゼミ形式の講座を実施した(4回開催 申込20名)。	・大学研究成果の起業・促進。主にディープテックなど理系分野の起業を促進するため、大学研究者を対象とした相談窓口やコミュニティの作成を行う。 ・大学等の地域連携支援事業(補助金)について、複数年度にわたる事業へ補助を拡大する。	京都市
5大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化	(2)産学公連携によるイノベーションの創出及び京都経済の活性化	②大学の技術シーズの事業化	京都市成長産業創造センターでの取組の推進	大学・研究機関、企業等の産学公が連携し、最先端の大学の技術シーズを着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進して、「グリーン・イノベーション」(環境エネルギー分野革新)と「ライフ・イノベーション」(医療・介護分野革新)を実現し、付加価値の高い高機能性化学品を生み出すとともに、その成果を地元の中小企業に橋渡しすることにより、京都市域における産業競争力の確保と新規事業を創出。また、人材育成や産学公の交流の場を提供し、幅広い情報交流の促進と新たな連携を創出。	大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進した。	引き続き大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進する。	京都市
		③大学との共同研究の推進による新事業創出支援	京都市ライフイノベーション創出支援事業	大学及び中小企業等の研究シーズの発掘等に取り組むとともに、有望な研究テーマについては大学・企業等との連携の下、事業化に向けて、産学連携のコーディネート活動を行うほか、国等の大きな研究資金の獲得に向けた伴走支援を実施。 また、大学発のシーズの事業化を進めるため、大学発ベンチャーの設立支援等も含め、発掘から事業化が見込める段階までの伴走支援を実施。	革新的な医療技術に関する研究開発に対して助成(採択件数:16件)を行ったほか、ライフサイエンス分野における大学発ベンチャーの起業促進に向けて、ビジネスモデル構築等を実践的に支援する「KYOTO発起企業育成プログラム」(採択件数:3件)等を実施した。	引き続き、京都大学をはじめとする市内大学との連携をさらに深め、大学発ベンチャーの創出や事業化につながる有望な研究成果の発掘を継続していく。本市の事業の終了後も、きめ細かな伴走支援を継続し、外部の産業支援機関等と連携した成長支援を推進する。	京都市
			地域産学官共同研究拠点事業	平成21年12月に(独)科学技術振興機構(JST)の採択を受けた地域産学官共同研究拠点整備事業により、平成23年に高度研究機器を配備した「京都バイオ計測センター」を整備し、バイオ計測プロジェクト及び先端光プロジェクトを推進。機器を活用し、企業や大学等の共同研究の推進と中小企業への技術移転、高度技術者の育成等を促進。 ※先端光プロジェクトは令和2年に終了。	高度研究機器を活用した大学、企業等との共同プロジェクトを推進したほか、先端研究機器に精通した高度技術者等の育成(人材育成セミナー等の実施)等に取り組んだ。	引き続き、高度研究機器を活用した大学、企業等との共同プロジェクトの推進や、先端研究機器に精通した高度技術者等の育成に取り組む。	京都市
			次世代産業×大学発ベンチャー 社会課題解決のための技術開発プロジェクト	社会課題の解決につながる研究を行う研究者に対し、研究開発への助成、実証実験のフィールドの提供、技術開発へのフィードバック等の支援を行い、製品・サービス等の開発を促進。さらに、こうした研究開発の成果を金融機関、ベンチャーキャピタル等の投資家に対して発表する場を提供し、大学発ベンチャーの起業を後押しし、次世代産業の振興を促進。	研究開発への助成を行い、研究の進捗状況の報告会(対面+オンライン)を実施した。	令和5年度に事業が完了	京都市
		④コンテンツ産業の振興と担い手育成	MANGAナショナルセンター(仮称)誘致推進事業	日本初のマンガ文化の総合拠点であり、MANGA ナショナル・センター(仮称)のハブ(軸)機能としての位置付けを目指す京都国際マンガミュージアムの機能充実を図るとともに、作品コンテストや企業等とのマッチングを通じ、コンテンツ産業を支える優秀なクリエイターの育成を推進。	京都クリエイティブ企業キャリアフォーラムの開催(令和6年2月23日)	京都クリエイティブ企業キャリアフォーラムの開催	京都市
	(3)大学をいかに文化芸術環境の向上	①新・文化庁との連携強化	新・文化庁との連携	文化庁地域文化創生本部と締結した連携協定に基づき、新文化庁との連携を強化。 (中核組織は令和5年3月に移転し、令和4年度中の業務開始を目指している。)	2024年1月11日に移転した文化庁へ理事長・事務局長が表敬訪問を行い、今後の文化・芸術を基盤とした大学等との連携の可能性について活発な意見交換を行った。	文化・芸術を基盤とした文化庁との連携強化策を検討・実施していく。	大学コンソーシアム京都

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
		②大学の知をいかした文化力の向上	生涯学習事業「京カレッジ」の充実	一般市民を対象とした生涯学習事業である「京カレッジ」において、新・文化庁との連携や「東京2020オリンピック・パラリンピック」等の時代のトピックスを踏まえた内容を反映。 【(再掲)5-(1)-②】	・提供科目数は168(前年度179)科目、出願者は延べ数で1,298(前年度1,278)名、実数で1,003(前年度823)名となり、提供科目は微減したものの、受講者数は前年度より増加した。 ・京都力養成コース「京都学講座」では、650名(昨年度は536名)の出願があり、テーマへの関心の高さが窺われた。 ・2022年度から新たにリカレント教育プログラムを開始し、本年度は3講座で173名が受講した。	・学びのニーズに応えるため、提供科目数の増加を各大学に働きかけるとともに、京カレッジを広く周知することで出願者数の増加を目指す。 ・「京都学講座」では新しい京都の観光をテーマに講座を開講する。 ・リカレント教育プログラムの拡充をはじめとし、京カレッジ科目のさらなる充実により、受講者数の増加を目指す。	京都市 大学コンソーシアム 京都
		③芸術系大学の集積をいかした文化芸術の振興	Art-e Kyoto	芸術系6大学(京都市立芸術大学、嵯峨美術大学、京都精華大学、京都芸術大学、成安造形大学、京都美術工芸大学)と京都市立小・中学校が、それぞれの教育資源を生かし、美術教育の充実や、芸術を大切にする風土づくりを目指して連携。	・「連携協議会」の開催(3回実施) ・大学・小中学校の連携事業 ・「京都芸術教育フォーラム」の開催(令和6年1月18日実施) ・「京都子どもアート探検ラリー」(小中学生向けのスタンプラリー)実施	・年3回の「連携協議会」の開催 ・大学等・小中学校の連携事業 ・「京都芸術教育フォーラム」の開催 ・「京都子どもアート探検ラリー」(小中学生向けのスタンプラリー)実施	京都市
5大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化	(3)大学をいかした文化芸術環境の向上	③芸術系大学の集積をいかした文化芸術の振興	駅ナカアートプロジェクト	京都市内の芸術系大学等と連携し、地下鉄駅に芸術系大学生の作品を展示。	【KYOTO駅ナカアートプロジェクト2023】 ・地下鉄駅8駅での8大学による作品展示を実施した。 (令和5年11月～12月) ・8月に作品構想意見交換会を実施した。同時に各大学、協賛企業による意見交換会を実施した。 ・12月に感謝状贈呈式及びジョイントミーティングを実施し、各大学から作品のプレゼンテーション後、意見交換会を実施した。	【KYOTO駅ナカアートプロジェクト2024(仮)】 実行委員会を立ち上げ作品展示の準備を進めていく。 実施に向けた進め方等について、関係者と協議をしながら、地下鉄駅での作品展示を予定	京都市
		④京都市立芸術大学新キャンパスを核とした文化芸術創造拠点の整備	芸術大学移転整備事業	京都市立芸術大学が世界を視野に更なる飛躍を果たすとともに、文化芸術都市・京都の発展に大きく貢献することを目指して、「京都市立芸術大学移転整備基本計画」(平成29年3月策定)に基づき、平成29年度から設計に着手しており、令和5年度の供用開始を目指して、引き続き、移転整備事業を推進。	京都市立芸術大学新キャンパス建設工事を令和5年8月末に完了し、10月に移転開校した。	-	京都市
		⑤「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生	若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり	京都を拠点に活動する芸術家たちが京都のまちなかに居住し、活動し続けることができる環境を整え、まちの活力に繋げるための各種事業をHAPS(東山アーティスト・プレイスメント・サービス)が実施。 京都駅東南部エリアにおいて、東九条にある空き家を借りて改修し、「HAPS HOUSE」を開設。HAPSが実施する「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」の中の相談事業(Social Work / Art Conference (SW/AC))の拠点等として活用。	①引き続き、HAPS(東山アーティスト・プレイスメント・サービス)が、芸術家たちの居住・制作・発表を支援するための各種事業を実施した。 ②引き続き、HAPS(東山アーティスト・プレイスメント・サービス)が、共生社会の実現に向け、文化芸術による社会課題や困難の緩和のための各種事業に取り組んだ。	①HAPS(東山アーティスト・プレイスメント・サービス)が、芸術家たちの居住・制作・発表を支援するための各種事業を実施する。 ②HAPS(東山アーティスト・プレイスメント・サービス)が、共生社会の実現に向け、文化芸術による社会課題や困難の緩和のための各種事業に取り組み、令和6年度からHAPS HOUSEを活用した展覧会の実施やHAPS 事業冊子の作成による情報発信の充実、アシスタントコーディネーターを1名採用し運営体制を強化を図る。	京都市
			京都駅周辺(西部・東部・東南部エリア)の活性化	京都市立芸術大学等の移転を踏まえた文化芸術を基軸としたまちづくりを進め、エリア活性化の機運を高めるとともに、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生を図るため、本エリアの学生、アーティストと地域の方、事業者等との交流を促進し、相互理解を深める取組を実施。	広報誌の発行や芸術活動・交流の場づくり等の取組を通じて、学生やアーティスト等とエリア内の事業者とのつながりが生まれるとともに学生等の活動の場が広がりつつある。 また、取組後もホテルなどの民間事業者による作品展示や演奏会が継続的に行われており、相互理解とエリアの活性化が進んでいる。	・京都駅周辺で活躍するアーティスト等の取組やエリア内での活動をサポートする情報を盛り込んだ情報誌を発行する。 ・地域の児童館やカフェ等において、学生やアーティストによる演奏会や作品展示、ワークショップなどを実施するほか、地域のイベント等と連携したアート活動の創出などを通年に渡り広く実施する。	京都市
	(4)大学と地域との連携の推進	①大学と地域の連携強化	「学まち連携大学」促進事業	大学等の教育・研究成果の蓄積や学生の活力を地域の課題解決や活性化につなげるとともに、地域社会との関わりの中で得られる学生の学びと成長の機会を創出する取組を、大学等の組織的な取組として定着させ、更に充実・発展させることを目的に、京都市内で地域と連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発・実施又は充実・発展に取り組む大学等を支援。	・最終年度となる令和5年度は、令和2年度からの採択校を引き続き支援し、本事業は終了となった。 スタートアップ型:2件(京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部、花園大学) 発展型:2件(京都橘大学、龍谷大学) ・採択校の取組について、最終の成果報告会を実施した(令和6年3月22日)。	-	京都市 大学コンソーシアム 京都
			京都市の部局や区役所と大学との協定締結による連携事業の推進	京都市と大学の連携事業を推進。	大学と連携した取組の推進に努めた。	引き続き、大学と連携した取組の推進に努める。	京都市

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
			大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)	魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生と地域が一体となって取り組む事業を広く募集し、助成金を交付するとともに、区役所等と協力し、学生と地域のつながりをより一層促進。	再掲:3-(2)-①事業名「大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)」	再掲:3-(2)-①事業名「大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)」	京都市 大学コンソーシアム 京都
			ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	京都市のふるさと納税に、京都の大学・学生の活動を応援する寄付メニューを開設し、「大学のまち京都・学生のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たっての財源確保を促進。	再掲:1-(3)-⑤事業名「ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設」	再掲:1-(3)-⑤事業名「ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設」	京都市
		②大学と地域の連携事例の発信	大学・地域連携サミット	大学コンソーシアム京都加盟大学における地域連携の事例や、学まちコラボ事業等における大学・地域連携の事例を広く発信するとともに、地域連携活動に関わる学生、大学教職員、地域団体等が交流する機会として開催。	令和5年度は学まち連携大学の最終成果報告会を実施したため、大学・地域連携シンポジウムは実施せず、代わりに「がくまちステーション」で最終成果報告会の結果を広く周知するとともに、令和5年度学まちコラボ事業の紹介を行った。	地域連携の事例の発信や、地域連携活動に関わる人々の交流の機会の創出に努める。	京都市 大学コンソーシアム 京都
5大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化	(4)大学と地域との連携の推進	②大学と地域の連携事例の発信	大学・地域連携ウェブサイトの開設	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学促進事業」、各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し、新たな連携や取組の深化を促進。	再掲:3-(2)-③事業名「大学・地域連携ウェブサイト開設」	再掲:3-(2)-③事業名「大学・地域連携ウェブサイトの開設」	大学コンソーシアム 京都
			立命館大学映像学部と連携した交通局PR動画の制作	立命館大学映像学部と連携し同大学の授業にて、交通局が提示したテーマのPR映像を学生が制作。完成した映像は京都駅・四条駅デジタルサイネージ及び交通局公式 YouTubeにて放映	「京都 地下鉄・バスICポイントサービス」をテーマに映像を制作。完成した映像は京都駅・四条駅デジタルサイネージ及び交通局公式 YouTubeにて放映した。	「市バスへの大型手荷物持ち込み抑制」及び「市バス通学フリー定期券」のPRをテーマに映像を制作予定。完成した映像は京都駅・四条駅デジタルサイネージ及び交通局公式 YouTubeにて放映予定	京都市
		③学生の力をいかした住民自治の活性化	大学生の力を生かした田中宮市営住宅における住民自治活性化	田中宮市営住宅(伏見区)に学生が入居し、自治会活動に参加することで、地域コミュニティの活性化を促進。実施に当たっては、大学、当該市営住宅自治会及び本市が連携協定を締結し、事業を推進。	・7名が入居し、自治会役員として自治会活動に参加 ・自治会行事(地蔵盆、学区区民体育祭、ふれあいまつり等)への参加 ・関係者協議については、対面協議を実施	・引き続き7名が自治会活動に参加 ・自治会行事(ソフトボール大会、地蔵盆、学区区民体育祭、ふれあいまつり等)への参加	京都市
		(5)小中高大連携の推進	①教職員交流企画の実施	高大連携教育フォーラム	高大連携・接続に関する国内動向の情報共有と京都地域における取組の情報発信を目的として、京都府内外の高校教職員、大学教職員等を対象とした高大連携教育フォーラムを実施。	・第21回高大連携教育フォーラム(対面開催12/2 参加者数:134名)	令和5年度に引き続き、高大連携教育フォーラムを開催する。テーマを含めた具体的な企画内容については、高大連携推進室に本協議会事務局(京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会)を加えた拡大高大連携推進室会議において、多様な視点から意見を交わして検討する。
	教職員交流企画の実施		「高大接続改革」の推進が求められている中、各校が抱える課題の解決や教育改善に資するため、学校や設置者の別を越えて、教育上の工夫や悩みなどを共有し、解決に向けて交流する場として「京都高校教員交流会」を実施。	・第17回・第18回京都高校・大学教職員交流会(計2回) 第17回(7/8 ハイブリッド開催)参加者数19名 第18回(2/3 ハイブリッド開催)参加者数15名	令和5年度に引き続き、高校・大学双方の相互理解を深め交流する場として開催する。本交流会の知名度向上を図るとともに、参加者自らが主体的に関与できるよう工夫しながら実施する。	大学コンソーシアム 京都	
②高大社連携キャリア教育企画の充実	高大社連携キャリア教育企画		高校生と大学生のキャリア発達を促すことを目的として、テーマを設けて高校生・大学生・社会人といった世代間や学校間を越えて対話し交流する「高大社フューチャーセッション」を実施。	再掲:3-(3)-①事業名「高大社連携キャリア教育企画」	再掲:3-(3)-①事業名「高大社連携キャリア教育企画」	大学コンソーシアム 京都	
③学校・幼稚園における学生の活躍の場の創出	「学生ボランティア」学校サポート事業		「大学のまち・京都」の特性を活かし、大学との連携のもと、教職を目指す学生を中心としたボランティアを学校・幼稚園に派遣し、各教科やクラブ活動の指導補助などの様々な支援を実施。一人一人の子どもに対するきめ細かな指導が充実し学校教育活動が一層活性化するとともに、教職を目指す学生の意欲・資質を高めることにより、将来の学校教育を担う教員の確保と養成に貢献。	学生ボランティア協定締結大学等数累計140校	引き続き、学校・幼稚園における学生の活躍の場を創出していく。	京都市	
	④産学公連携による教育システムの研究と発信	京都教育懇話会	新たな次世代教育モデルの創造・構築に関する研究を深め、先進的な取組を京都から全国に発信するため、産学公で構成された京都教育懇話会の活動を推進。	京都教育懇話会例会(勉強会)の開催(6回)	京都教育懇話会例会(勉強会)の開催(2~3回程度)	京都市	

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
			京都子どもモノづくり事業	産学公連携のもと、「ものづくり都市・京都」の特性を生かし、子どもたちがモノづくりに関して学んだり、体験したりする機会を創出・提供。	○「京都モノづくりの殿堂・工房学習」…138校8,130名に対し実施 ○「京都モノづくりの殿堂・工房学習」体験会…110名に対し実施 ○「京都モノづくりの殿堂」一般公開…延べ446名が来館 ○京少年少女モノづくり倶楽部…登録会員数3,749名及び講座数129団体410件	○京都モノづくりの殿堂・工房学習の実施 ○「京都モノづくりの殿堂・工房学習」体験会の実施 ○「京都モノづくりの殿堂」一般公開の実施 ○京少年少女モノづくり倶楽部による情報発信	京都市
		⑤京都学生広報部への高校生の参画の促進	京都学生広報部	中高生と直接交流するイベントを開催するとともに、京都B&Sプログラムへ京都学生広報部の学生が参加し、修学旅行生に対して、ウェブサイト「コトカレ」等のPRを実施。	京都の大学、学生生活の魅力を知ってもらうイベント「京都学生広報部presents 祇園花月大学」を実施した。	引き続き、企画をととして、京都学生広報部と中高生が直接交流する機会を創出する。	京都市大学コンソーシアム京都
6国内外への魅力発信の強化	(1)「大学のまち京都・学生のまち京都」の中高校生・保護者等への魅力発信	①修学旅行生とその保護者等を対象としたPR	街全体がキャンパス学びの都 京都B&Sプログラム	全国から修学旅行で京都を訪れる中高生に現役大学生が観光地や大学キャンパスと一緒に街歩きし、京都の街・大学の魅力を伝達。	京都への進学率の向上、将来の京都ファンの獲得を目指し、「大学のまち」の特色を活かした体験学習プログラム「京都B&Sプログラム」を、大学コンソーシアム京都と連携して実施した。	引き続き、学生ボランティアの確保に取り組み、京都の大学への関心を高め、京都の大学へ進学する学生の獲得につなげる。	京都市大学コンソーシアム京都
6国内外への魅力発信の強化	(1)「大学のまち京都・学生のまち京都」の中高校生・保護者等への魅力発信	①修学旅行生とその保護者等を対象としたPR	京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	京都B&Sプログラム等を通じて、修学旅行生等を対象に京都の学生生活の魅力を発信した。	引き続き、ウェブサイト「コトカレ」やSNS等をととして、修学旅行生に対する京都の学生生活の魅力を発信する。	京都市大学コンソーシアム京都
			きょうと修学旅行ナビの運営	テーマ別モデルコースの紹介や、修学旅行関連資料の提供など、京都への修学旅行をサポートするウェブサイトを運営。	京都市内班別自主行動のコースづくり等の事前学習の充実を図るため、きょうと修学旅行ナビを運営した。 京都市の修学旅行公式ホームページ「きょうと修学旅行ナビ」において、観光施設や体験施設の情報とともに、新型コロナウイルス感染症対策の特設ページの管理運営など京都の安心・安全対策について積極的に情報を発信した。	京都市内班別自主行動のコースづくり等の事前学習の充実を図るため、観光施設や体験施設の情報とともに、修学旅行関連資料の掲載や資料発送の申込受付を行う。	京都市
		②学生による京都で学ぶ魅力の発信	京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	再掲:5-(5)-⑤事業名「京都学生広報部」	再掲:5-(5)-⑤事業名「京都学生広報部」	京都市大学コンソーシアム京都
		③現役学生の保護者や卒業生、観光客等、幅広い層を対象とした情報発信	京都版スタディ・ツーリズム	京カレッジや各大学の公開講座等の情報を、東京から幅広く発信することにより、京都で学ぶことを目的とした来訪を促進。	京カレッジの情報等について、大学コンソーシアム京都のウェブサイト等で発信した。	引き続き、ウェブサイト等を活用した発信を実施するとともに、東京からの情報発信についても模索していく。	京都市大学コンソーシアム京都
	(2)留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信	①留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信	全国から京都へ！ 留学生の戦略的誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。	再掲:2-(1)-①事業名「全国から京都へ！ 留学生の戦略的誘致事業」	再掲:2-(1)-①事業名「全国から京都へ！ 留学生の戦略的誘致事業」	京都市大学コンソーシアム京都
			留学生PRチーム	京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、出身国等における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報について現地向けに発信。	再掲:2-(1)-①事業名「留学生PRチーム」	再掲:2-(1)-①事業名「留学生PRチーム」	京都市大学コンソーシアム京都
			「京都PR学生大使」制度	京都ファンや京都への留学生数の増加を目的として、「京都PR学生大使」を任命し、日本人学生の海外留学への関心を高めるとともに、留学先でのコミュニケーションの不安を軽減することによる海外留学促進と、学生が留学先などで京都の魅力を英語で的確に発信。	再掲:2-(4)-①事業名「京都PR学生大使」制度」	再掲:2-(4)-①事業名「京都PR学生大使」制度」	京都市
	(3)大学・市民向け広報の充実	①市民向け広報の充実	大学・地域連携ウェブサイトの開設	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学促進事業」、各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し、新たな連携や取組の深化を促進。	再掲:3-(2)-③事業名「大学・地域連携ウェブサイトの開設」	再掲:3-(2)-③事業名「大学・地域連携ウェブサイトの開設」	京都市大学コンソーシアム京都

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」の進捗状況

大項目 (柱)	中項目 (推進施策)	小項目	事業名	事業概要	令和5年度進捗状況	令和6年度計画	実施主体
		②「大学のまち」「学生のまち」の更なるPR	シンボルマークの策定	「大学のまち」「学生のまち」の認知度向上に向け、シンボルマークを策定し、京都の魅力を発信。	-	方向性について検討を行う。	京都市 大学コン ソーシアム 京都
		③大学・学生向け広報の充実	学生向けアプリKYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	再掲: 1-(2)-④事業名「学生向けアプリKYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用」	再掲: 1-(2)-④事業名「学生向けアプリKYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用」	京都市 大学コン ソーシアム 京都